審査の結果の要旨

氏名　山　﨑　準　二

本研究は、教師のライフコースを継続的調査によって世代別に比較し、教師が専門家として成長する経験と職業意識を個人的、社会的、歴史的状況に照らして理解することを主題としている。この主題に接近するために、本研究は、静岡大学教育学部を卒業して静岡県下の小・中学校に赴任した教師を５年単位の９つのコーホートとして抽出し、この９つのコーホートの教師１５０６名を対象とする質問紙調査を３回実施して（１９８４年、１９８９年、１９９４年）、併せて、各コーホートごとに２－３名を抽出した計２２名の教師を対象とする集約的なインタビュー調査により、世代別の教職意識の特徴とその変容を描き出している。

教師の職業経験とその発達に関する研究は、これまで、職業的社会化の研究、職能発達のライフサイクル研究、およびライフヒストリー研究によって開拓されてきた。本研究は、それらの成果を継承しつつ、新たにライフコース研究の方法論を活用して世代別コーホートの比較を１０年間にわたる継続的調査で実現したところに独創性がある。その方法を提示した序論（第一章）では、ライフコース研究の諸概念を先行研究に即して吟味し、教職生活の複合性を「変容性」「多様性」「コーホート性」「歴史性」の４つの側面において開示し、さらに、各コーホートの教職意識とその変容を「加齢効果」「コーホート効果」「時代効果」の三つの視点で叙述する方法を提示している。

本論の各章では、教職選択の時期と要因、教職イメージの形成、教職アイデンティティの形成（第２章）、教職の遂行と転機（第３章）、教職の危機（第４章）、教職イメージの変容と教師教育の意味づけ（第５章）を、新任から退職までの各ステージにおける職業意識の変化に着目しつつ、９つのコーホートの比較によって特徴づけている。そして結論（第６章）では、９つのコーホートを「若手」「中堅」「年輩」の３世代に統合し、世代間、性別における教職生活の転機と危機の特徴、専門的成長を促進する要因の比較、専門的成長の様態と制度化された研修との齟齬の実態を描き出している。

本研究は、９世代を比較して静岡県における戦後４０年にわたる教師の職業意識の変貌を実証的に開示した点、および、各世代におけるキャリアステージごとの教職生活の危機の特徴と専門的成長の契機を明示した点など、教職生活の実態の探究と教師政策の立案に資する数多くの知見を提供している。特に、教職を選択した主たる契機が世代を追うにつれて親や身内の助言から担任教師からの影響へと変化し若年化している実態、若年層の教職イメージがテレビ・ドラマによって影響されている現実、専門的成長の最大の契機である同僚関係が希薄になっている実態、専門的成長において、学校内外のインフォーマルな学習経験が有効に機能しており、女性教師の場合は個人的経験が重要な意義を担っている点など、教職生活の複雑な展開を理解する上で貴重な知見を多数提供している。よって、本論文は博士の学位の水準を満たすものとして評価された。